

格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 野村 充)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『A』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
 - (1) 富山県に本店を置く資金量約1.3兆円の第二地方銀行。格付には、地元金融マーケットにおける一定のプレゼンス、充実した自己資本、格付対比で高い収益力などを反映している。有価証券運用にかかるリスクは管理可能な範囲内で推移するとみており、また、当面高い利回りを確保可能と見込まれる。事業性および個人向け貸出、フィービジネスの増強に向けた取り組みが成果に結び付いており、収益力の一段の強化および安定性の向上につなげていけるかJCRは注目していく。
 - (2) 23/3期のコア業務純益(投資信託解約損益を除く、以下同じ)は過去最高水準まで増加、ROA(コア業務純益ベース)は約0.5%まで上昇した。比較的利回りの高い株式の残高を積み増してきたことなどにより、有価証券利息配当金が増加している。また注力するフィービジネスにおいて、法人顧客の経営計画策定などにかかるソリューション関連手数料が着実に増加している。事業性貸出、住宅ローンの残高が増加しており、長期にわたり減少が続いてきた円貨貸出金利息は反転しつつある。当面のコア業務純益も堅調に推移する見込みである。効率化や営業力強化に向けたシステム投資負担が先行するものの、貸出金利息の増加などが業績を牽引するとみている。
 - (3) 金融再生法開示債権比率は23年3月末で2.78%。コロナ禍や景況感の悪化などを背景に、債務者区分の引き下げが増加したことから従前に比べてやや高い水準にある。資源価格の高騰などが与信費用に与える影響に留意が必要だが、業況の不芳な大口与信先に対して厚めの引当を実施していることなどを踏まえると、与信費用はコア業務純益で十分に吸収可能な範囲にとどまると考えられる。
 - (4) 有価証券ポートフォリオに占める、株式や投資信託、為替リスクを取った外貨建債券の構成比が高い。有価証券にかかるリスク量が資本対比でみて大きいことに留意が必要である。もっとも、含み損を抱えた資産の売却を進めるなど機動的な対応が図られていることなども寄与し、その他有価証券は相応の含み益を確保している。資本の厚みなども勘案すれば有価証券にかかるリスクは管理可能な範囲内にあるとJCRはみている。
 - (5) 一般貸倒引当金などを調整後の連結コア資本比率は23年3月末で約11%であり、Aレンジの地域銀行の中で上位にある。貸出金残高の増加などによりリスクアセットが拡大し、コア資本比率の低下が続く公算が大きい。格付相応の資本水準を維持可能とみている。

(担当) 大石 剛・阿知波 聖人

6. 格付据え置きについて
格付据え置きにつきましては、当行の健全性と透明性が適正に評価されたものと考えております。引続き、健全性を維持するとともに地域金融機関としてお客さまの多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先
総合企画部
電話 076-424-1219